山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

No.233　　2015 年(平成 27 年)6月7日発行

会　　長　　／T.S
事務局長　　／K.T
振込口座　　／山岳クラブ　グーテンタータ
　　八十二銀行長野駅前支店（普)401641
ホームページ／ http://guten-nagano.com/
編　　集　／T.S　D.M
印　　刷　／中央プリント(株)

目次

山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～13
山行計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
おしらせ・来月担当者＆編集後記・・・・・15

3月 21 日(土)22 日(日)　五竜岳(個人山行)

メンバー：　LS 谷　　H 岡　　D 原

1 日目：快晴　8:50 ゴンドラ降り場　9：20 地蔵の頭　13:30 西遠見山

毎年 12 月に地蔵の頭で雪上訓練を行っているが、肝心の五竜岳にはまだ登っていない。急に思い立ち行くことにした。今回は 2 日とも素晴らしい天気に恵まれ、冬山を満喫することができた。
ゴンドラは 8 時からなので、朝ゆっくりと出発。地蔵の頭にはスキーヤーも大勢いる。

西遠見までは、特に危ないところもなく、13:30 には、幕場到着。西遠見の手前には２～３のテントが張られていた。
西遠見の西側に我々ともう一パーティがテントを張った。結構広い場所なので、風がかなり強く吹くと思われる。しっかりとブロックを高く積み、暴風対策を行った。

2 日目：快晴　6：30 出発　9：40 五竜岳ピーク　11：00 五竜山荘　15：30 ゴンドラ乗り場
ゴンドラの終了時刻が４時であるため、朝 6 時 30 分には、出発する。白岳の南斜面は雪崩れている。昨日は、何人かがデブリを超えて斜面をトラバースしていたが注意が必要な場所である。

五竜山荘を過ぎは暫く夏道を行くが、急斜面をトラバースしている。クラスト状のため足が慣れるまでかなり緊張する。2人ほど、途中から引き返していく。
その後雪により夏道が不明瞭となり先は岩場の急斜面になっているため、尾根を目指し直登する。尾根近くはかなりの急斜面となり緊張を強いられる。
鞍部をこえ最後のピークへの登りは更に急になっているが、ステップが切ってあり問題なく登る。
　ピークからの絶景を楽しんだ後、行動時間を考えるとのんびりもしていられないため、そこそこに下山開始。重い荷物にあえぎながら、なんとか15:30ゴンドラ乗り場に着くことができた。　　（ｂｙ　Ｓ谷）

4月4日(日) 昼闇山 スキー（個人山行）

メンバー：　Ｌ　Ｔ島　Ｍ井　Ｓ谷
天気：快晴　　８:00 笹倉温泉－12:30 高松山－14:30 昼闇山－15:30 焼山温泉

　家を出るときは天気が悪く天気予報も良くなかったが、糸魚川方面だけ運よく快晴に恵まれた。
Ｍ井さん先頭で快調なペースで登っていく、「暑いー！」
気が付くと服に白いものが・・・高松山手前でガス欠気味なってしまった。水もない！！！
（今回は水を５００ｃｃしか用意しなかった）。
　高松山から昼闇山までがとても遠くに見える。ヘロヘロになりながら、なんとか昼闇山ピーク14:30に到着。
　ピークから昼闇谷に向かって大滑降！・・・と思いきや、大転倒。サングラスを割ってしまう。

　笹倉温泉に車を置いたが、前日の雨・雪解け水で川は増水しており、渡れそうもない。焼山温泉まで下り、そこから歩いて車を取りに。

　今回は気持ちが緩んでいたせいか、いろいろとあった山スキーでした。

（By Ｓ谷）

4月 18 日(土)　裏妙義縦走 （例会山行）

メンバー：　L　K池　K林　Y本　M下　D原
7：40 国民宿舎 P 発　→8：40 木戸 →10：30 丁須の頭(1057m)→11：40 赤岩→13：00 三方境
→14：30 国民宿舎 P

今日は天気が安定し気持ち良い一日になりそう。群馬に入るとさらに気温が上がる。国民宿舎駐車場は桜がちょうど満開で美しい。今回はみんながミョウギコイワザクラを楽しみにして参加している。出会えるといいなと胸を膨らませながら国民宿舎を出発。

外から見ても岩に囲まれた裏妙義の険しさは目立っているが、実際山に入ってみてそれが実感できる。

巨大な岩に囲まれた登山道をのぼりつめていく。途中あちこちで奇岩がごろごろしている。クライミングをしたら楽しめそうな岩がたくさんありそうだったが、メンバーの人たちに聞いてみると以外にもあまり登る人は聞かないなあとのこと。途中、スミレをたくさん見かけたが、コイワザクラにはなかなか出会えない。

しばらくすると丁頭の頭が見えてきた。エリンギみたいな形だ。登ってみたいが、私の実力ではちょっと無理そうだ。K 林さんだけエリンギに登頂。満面の笑顔で写真をパチリ。ここで全員ハーネスをつけ、いよいよ始まる鎖の連続に備える。

20 分ほどして出発。ここからはアップダウンと鎖のついたトラバースが続く。念のためシュリンゲに 2 枚のカラビナをつけ、何度も架け替えながら慎重に渡っていく。

突然 Y 本さんが「あっ！」と叫ぶ。なんだ？？と思ったら、足元の岩の間に一輪のミョウギコイワザクラを発見したもよう。あんなに小さい花なんですねー。私はてっきり山桜のように木に咲いているものと勘違いしていました。みんなでパチパチと写真撮影。株らしきものは皆さん見つけたようですが、花はこれが最初で最後の対面でした。ちょっと時期が早かったのかな？

予定より少し早く三方境に到着。みなおなかペコペコ。おまけに K 林さんが鍋でラーメンを煮始めたものだからたまりません。匂いにやられました。ここからの下山路は登りと同じ山とは思えないような広くて歩きやすい樹林帯をひたすら下降。岩あり、鎖あり表情豊かな山でした。
(D 原　記)

4月28日(火) 大菩薩嶺(個人山行)

メンバー：0 川
9:30 上日川峠Ｐ　→9:50 福ちゃん荘 10:00→10:50　雷岩　→11:00　大菩薩嶺→
１１：10 雷岩 12：00　→　13：00 大菩薩峠　→　13：30　石丸峠→15：00 上樋川峠ｐ

富士山を見に大菩薩嶺に行ってきました。

14 日の雨天のため中止したこともあり、天気には万全を期したいと考えていました。朝、晴天でしたので出発、ところが山梨に入ったらドーンと見えるはずの富士山が見えません、ひどい黄砂です。朝凪の状態でしたので、陽が高くなり風が吹けば、見通しも良くなること期待し、出発時間を遅らせました。

唐松尾根を振り返り、振り返りのんびり登ります。写真を撮りますが富士の稜線が春霞（黄砂め！）で消されます。頂上は例によって視界がないので、雷岩まで戻り昼食です。雷岩からの富士山（写真１）です。フルオートのため、これが今回のベストショットでした。

山頂から大菩薩峠へ向かう稜線（写真２）です。開放感のあるコザサ（ミヤコザサ？）の稜線をのんびり下りてきました。

大菩薩峠小屋で奥秩父の山々、南アルプスの山々など、例によって山座同定し、石丸峠を経て上日川駐車場に戻りました。帰路大菩薩温泉により、ゆっくりしてきました。　（0川　記）

写真１　富士山（雷岩より）

写真２　コザサの稜線

４月29日(水) 袴腰山（例会山行）

L　K池　SL　Y本　M下　D原　＆　カミさん

長野 7:00⇒道の駅[漢学の里しただ]”彩遊館”⇒ﾃﾞﾎﾟ長禅寺駐車場⇒八木ヶ鼻駐車場 10：06→11:04:八木ヶ鼻,袴腰山分岐→11:16 八木鼻山頂→追分の松→12:19 三角山→11:16ﾌﾞﾅの杜→12:35 粟ヶ岳分岐→12:52 袴腰山→(13:04～13:24 木陰でﾗﾝﾁ)→13:51 高城城本丸(373M)→14:46 長禅寺駐車場

今回もお花見山行 袴腰山(526M)(標高の割にはﾁｮｯﾄきつめ)。登山道からは左手にドーンと粟ヶ岳、右奥に雪多い守門岳が見え遠くに米山、火打も見える筈！

八木ヶ鼻の麓の駐車場(ﾄｲﾚ,水道あり)から道を挟んだで登山道への入口があり。すぐ花だらけ、晩のオカズだらけ、今回はユッタリだからを理由に林の中をウロウロ。

林が終わり、少し急登が続くと味噌汁用のﾀｹﾉｺ、つづら折りの急登に一汗かいて稜線分岐。右に進んで八木ヶ鼻の山頂。粟ヶ岳や守門岳等がよく見えベンチも置かれ、家族連れがパーティー開催中。追分の松。いくつかのロープ場を歩き。三角山に到着。前に袴腰山山頂。いつもの様に山頂前は急登。急なロープを使っての登り、山頂に到着。鐘があるだけ、潅木が茂っていて眺めはよくないし日陰はないしで即下山。

急坂を少し下ってアカマツの多い尾根でお昼。

山城の堀切を過ぎると高城。城跡は広々としていて、ベンチ、避難小屋、トイレもあり。高城(1426 年築城)は戦国時代の長尾豊景云々より、”春から初夏にかけて美しい花を咲かせるヒメサユリ”が有名で、少し下ると、よく整備された「ヒメサユリの小径」があり、かわいい蕾をもったヒメサユリの群生が風

に揺れていました。
八木ヶ鼻温泉　　いい湯らてい　　1 時間の入浴時間制限で 500 円　バスタオル付き
（クマさん　記）　　Y本さん写真ありがとうございます

5月3日(日) 天狗山(個人山行)

メンバー：　U木
馬越峠登山口　6:55-天狗山 8:55-　馬越え峠登山口 9:55

この山は信州１００名山（清水著）のひとつで小川山フリークライミングを終えて川上村に近づくとどーんと聳えてかっこの良い山で 20 年も前から見慣れていた山だが登ったことはない。
もうひとつ男山と双璧だ。元気なら天狗から男山に縦走したいところだがやっと運動解禁直後で今日は無理な情勢。次回はまた日帰りで男山に来るしかないな。
花のゴールデン week はクライミングはなんと留守本部に徹する。いまごろは残雪の山は皆さん謳歌しているだろうなと思うとうらやましいかぎりだ。南陵やコブ尾根が頭にちらつく。まあさんざのぼたっからいいか。と慰める。

登山口の馬越峠

ゴールデンウイークなので高速が混むかも。予定を早めて 4 時に起床。まだ暗いが家をでるときは明るくなってきた。予定では川上村から林道の予定だがナビが小海橋を渡れと指示しているのでこちらが近そうなので南相木村に入る。しばらく沢に沿ってから一車線の林道の登りとなる。予定より 2 時間早く着く。登山口には 2 台すでにあり。夫婦連れがラーメンを食べていたので驚いた。
アルプスの残雪が頭にちらつく。しかし予想もしない６０年前の蓄膿の後遺症のために再度の鼻の手術をして運動禁止が解けたばかりの身にとって選択肢が狭く南信の 1 時間コースしかなかった。

天狗岳頂上　　男山と遠くに八ヶ岳

解説本宮坂さんによると細い岩尾根をたどるとのことでちょっぴり期待した。10 分で尾根にでるとたしかに岩がところどこでてきてストックで耐えて登る。登ると展望が開けてきた。南相木村の部落の部落が良くみえる。2 度ほどピークを超える。1 度はピークを巻いた。
帰りにピークでまいたらどんどん川上村が近くなったので、GPS をみたら完全に外れていて登りなおした。このピークは巻かずそのまま稜線をたどる。頂上には夫婦連れと単独シニアがすでにいた。廻りに木が一本もなく大変眺めが良い。湯の丸　浅間　戸隠連邦　八ヶ岳　乗鞍などよくみえる。

ゆっくり眺める習慣がないので写真をとってすぐに下山する。くだるとどんどんと登ってきた。子供連れ　恋人どうし　夫婦連れ　単独はいなかった。なにせ一時間ですばらしい展望できるのだから。さすがに物足らないが時点ではしかたがない。

帰りは高速はやめた。坂城―長野　渋滞９ｋｍとかみえてやっぱし高速にのらずに正解だった。南信の里山　１座　ゲット。未踏の山はそれなりに楽しいものだ。しばらく里谷に通いことになりそうだ。登山口には車が沢山の所狭しと駐車していた。さらに２台ほどきてシニアの夫婦登るようだ。いまごろ２０名くらいは頂上にいそう。帰りに山菜を販売を期待したが１軒もなかった。

(U木　記)

5月2日(土)3 日(日) 蝶ヶ岳～常念岳縦走 （例会山行）

メンバー：L　S谷　Y本　H岡　D原

１日目　三俣駐車場（6：25）→　三俣登山口（6：50）
　　→蝶ヶ岳ヒュッテ（13：00）テント泊

２日目　蝶ヶ岳テン場（5：30）→常念岳（11：00）→
　　三俣分岐(　11：30)→前常念岳（12：30）→
　　前常念三俣登山口（14：20）→三俣駐車場（16：10）

久しぶりに早起きして向かった三俣駐車場は、GW と連日の気温の上昇もあってか満車状態、私達もテント泊の重いザックを背負って出発です。

登り始めの沢沿いの道は、雪も無くイチゲ・ショウジョウバカマが咲き始め、瑞々しい草木の新芽が新鮮です。

時々、すれ違う登山者も結構居ます。まめうち平手前の急登と暑さにまず、息を切らしました。

まめうち平を過ぎた樹林帯の中は残雪も多く成ってきました。雪は締まって歩き易かったので、アイゼンを付けずに進みました。春のアルプスに来たのに、暑い。この暑さもあってかザックの冬装備がやたらと重く感じられ雪のトラバースの急登に苦戦する。疲労感も高まる。蝶ヶ岳の登りってこんなに大変だったかな。時々木々の間から見える常念岳に元気を貰い、頑張る。

とうとう姿を現した槍穂高、この景色を見たくて頑張ったんだ。テン場には雪がありません、テントを設営して、小屋のＳ井さんに挨拶に行くとあとは、ポカポカ陽気の中で、まずは、一杯喉を潤し、まったりとお昼寝、蝶ヶ岳の稜線で槍穂高の峰々に思いを寄せて最高の時間を過ごしました。

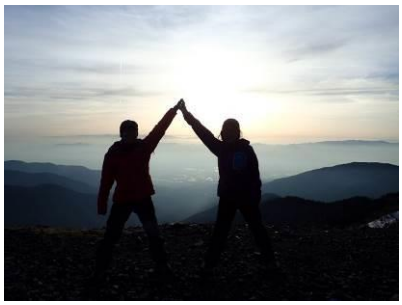
夜も、大きなテントの中でも、汗ばむほど暖かい就寝でした。

２日目　今日も天気は快晴、長くなる行程時間を考慮して、５時３０分から行動開始、蝶槍までの穏やかな尾根を雄大な穂高連峰を左手に、景色を堪能しながら時々シャッターを押し、進みました。

蝶槍を過ぎた下りで、雪面が朝の寒気で固く締まっている。ここでアイゼンを装着、目の前に聳える常念岳を始終眺めながらの雪稜のアップダウンの繰り返し、こんなに降りなくても良いのにと思いながら、何度も背中のザックを背負い直しました。

振り返ると出発した蝶ヶ岳、蝶槍が遠のき、常念岳が目の前に迫っている。最後の岩ゴロ急登の前でまた休憩、重いザックでバランズを崩さない様、注意して登る。常念岳の山頂に立った時は、ホットするとともに感動しま

した。
常念の山頂で、３６０度のパノラマの中で食べたカップ麺は、美味でした。
今日の、この区間で一番注意が必要な前常念岳からの下りの開始です。CL が心配していた雪も付いていず、やたら大きな岩の転がっている急な岩ゴロ、気を引き締め直して降りていきました。とても長く感じられました。
最後アルミの梯子を下りて雪の尾根に出た時は、一安心しました。



しかし、この後続く樹林帯の根っこの張り出した登山道、顔の周りに纏わり付くブヨにヘキヘキしながらの下山が待っていました。
この頃になると皆寡黙に成り、ひたすら下ります。三俣駐車場に着いて重いザックを投げ降ろし、冬靴を脱ぎ軽く成った体が疲労でいっぱいでした。
今日の行程時間１１時間頑張ったな～　！　　（H 岡　記）

5月6日（水）　金山沢スキー（個人山行）

メンバー：　Ｌ K 原　K 池
南長野運動公園 5:3０⇒栂池高原 7:05～8:05⇒栂池自然園 8:50→崩壊底支尾根 10:50～11:35～～～
金山沢中間点 11:55～1210～～～白馬沢出合～～～猿倉 12:55

連休中に、一昨年敗退の白馬→雪倉→蓮華♨→栂池をもくろんだが、 ５日雨という週間天気予報を見てあっさり変更。久しぶりの金山沢となる。
移動性高気圧居座り絶好の山スキー日和。オリンピック道路を経て堀之内地区を抜けると滑降ルートがよく見える。高温多雨の春だったにもかかわらず大きな底雪崩跡は無し、きれいな雪面だ。
猿倉の P 付近の積雪は 1～2m 程度で例年並み。一台デポして栂池へ。のんびり準備して 8:00 始発のゴンドラに乗り込む。連休最終日は意外なほど人数まばら。ロープウェイからは小蓮華肩へ続く斜めのラインが微かに見える。トラバースルートなら我々も楽だ。
栂池高原から乗鞍方面へ向かう大部分のスキーヤーと別れ、我々は湿原方面へ向かう。ヒュッテの脇を抜けると、1900m 辺りを登る先行者２人が見えた。先日の風吹～北野の時もそうだったが、どこの斜面も平面も雪面の雨裂溝が深い。大雨のせいだろう。小蓮華肩下の大斜面はどうだろう? 下りルートの状態が気にかかる。
何時ものように 2070m 中間台地で横になった岳樺の幹に座って休憩。辺りのオオシラビソ等目通り高さ位で折れた痕が目立つ。ホウでやられたのだろう。周辺には小丘や階段状斜面が目立つ。カールとばかり思っていた小蓮華東尾根下の大崩落堆積物だ。小丘は流山。雷鳥坂先の稜線には二重山稜（線状凹地）が多いが、南東側崩落により支えが無くなったためにできた重力性断層だ。蝶ヶ岳は有名。種池小屋周辺もおそらくそうだろう。
先行者は二つの流山の先から左に巻いたが、我々は大丈夫だろうと正面右手の亀裂左手へ直に進む。亀裂を越えれば 2240m 平地。2301m 台地へトラバースしたが、深さ・間隔共雨裂溝がハンパない。とても滑降できるような斜面ではない。船越ノ頭～小蓮華肩下の大斜面も雨裂溝が全面びっしりついている。登ってみたところで快適滑降は到底無理だ。金山沢も気になる。K 池さんと「上部は諦め」で即一致。船越ノ頭真南の岳樺点在 2350m 緩小尾根状地までとする。
先ずは雪で冷やしたビール（貧しい自分は発泡酒）で喉を潤す! これが春スキーの楽しみだ。無風快晴、時刻はまだ 11 時前。杓子・八方尾根を眺めながらのんびりくつろぐ。登り２時間、後は出合まで標高

差 970m の滑降が待っている。中高年にはちょうど良い。先行者はトレースを辿って小蓮華肩へトラバースして行った。
　最初は溝少ない真下緩斜面を一滑り。右へ斜滑降して降りロへ。沢中央は溝ありだが、右側は斜度はあるものの一枚バーン。連休中のトレース多く、メインバーンはゲレンデ状態。溝無く休みを入れながら快適に滑降。右クレバスも今年は小さめ。右屈曲ノド部分も問題なし。合流部に例年のように雪崩跡はあるが小さめだ。緩くなった斜面を快調に滑り、右にカーブする合流部 1750m 上で休憩。
　小日向山北斜面はトレースだらけ。杓子尾根北斜面にも。小日向山の向こうに峨臥とした岩場が見える。どこなのか分らなかったが、後で地図を見ると鑓♨南東の烏帽子岩か天狗ノ頭東の独標らしかった。再び滑降を開始し、狭くなった沢を左に曲がるとデブリヶ所。今年も右岸側から沢全体を埋める底雪崩が出ていたが、何時ものように左岸側を横滑りでやり過ごして無事通過。白馬沢手前の大右カーブを進むと水流出現！ 覗き込むと左岸側は完全に口を開き通過不能。トレース通り右岸側を通って本流部に滑り下りた。
　後は、何時ものように堰堤右から林道に上がり、半分押しながら猿倉へ向かう。途中、熊の観察をしている人の先で突然今シーズン二回目の不整脈が出、血が回らなくなる。息切れが収まるのを５分位待ち再スタート。最後は猿倉Ｐ車真裏へ直に滑り下りて終了。
　帰路、林道脇に咲く濃ピンクのカタクリが見事だった。キクザキイチゲ・ニリンソウも盛り。
（K 原　記）

＜キタさんのおまけコーナー＞
※稜線まで上がれば登行高度 775～790m 滑降高度差 1350m 以上の滑降中心快適コース
※小蓮華肩～2301m 台地までは高度差 300m の無木一枚バーン!
※稜線直下に亀裂の入ることが多いが、雪崩たのはまだ見ていない
※沢落ち込み右滑降斜面には亀裂入る。要注意
※上部ノド部分(2050～1950m)は狭く急なだけで特に問題なし
※下部ノド部分(1600～1500m)は右斜面からの底雪崩地帯。早い時期は直撃に注意
※白馬沢合流手前は寡雪期には口が空く。右手より下降すれば可
※稜線～栂池～猿倉上部堆積物は横尾氷期のモレーンと言われていたが、専修大苅谷
　教授の研究により崩落堆積地と判明。地形図を見ても池・凹地・小丘・階段状地形等、
　崩落・地滑り地特有の地形が見られる。
　似た地形の例：佐野坂丘陵・鍋倉山関田峠下方・小谷鎌池周辺・奥裾花自然園・白馬
　柳又谷源流域・焼山北方台地等々
※ゴンドラロープウェイ片道料金 200 円上がって 1920 円。始発 8:00

５月２日(土)3日（日）6日（水）　地味に常念岳･蝶ヶ岳･燕岳（個人山行）

メンバー：　S 藤ほか 0 名

1 日目：常念岳（ピークハント）
一の沢 4:35　常念乗越 7:30　常念岳 9:00・9:30　常念乗越 10:30　一の沢 12:40
　地味に春山恒例の 3 山、昨年は時期が遅れていまいちだったので今年は昨年より予定を早めようとしていたら会山行の計画メールが来ている、あれ常念から蝶ヶ岳が 1 泊で計画されてる。幕営道具背負って登山か、遅れて他のメンバーに迷惑かけたらまずいな、とぐだぐだしていたら締め切りが過ぎてしまった。
　結局個人山行にする、会山行が入ってるから他の会員に声かけたらまずいなー、とまた別の意味での個人（一人）山行になった。
　早朝一ノ谷に向かう、駐車場は登山口から遠いので小脇のスペースに車を止めて身支度をして登山口に向かう。
登山口で計画書の提出を求められ計画書のコピーを渡す。バスで来た団体さんが着いてるはずなのに人がほとんどいない、薄暗い中笹平の緩やかな道を進む、前を見ても一人、振り返っても一人、王滝ベン

チから沢筋に入いれるかな、と思っていたが結局烏帽子沢出会いまで土の歩きとなった、出会いから雪道となるが、昨年より早いせいか雪も途切れないで快適に距離を稼ぐ、最後の急登も冬道をゆく　あれ何だか斜度が緩い　気のせいだろうか急登のあとは少しのトラバースで夏道と合流する、ここでアイゼンを脱げとベンチまで用意されている。当方ここまでノンアイゼンなのでなんだか過剰サービスの様な気がする。　　ここからわずかな距離で常念小屋に到着する。

一休みの後山頂を目指す、偽ピークまで登って唖然とする。雪が全く無い、平年でも偽ピークまで雪は少ないが、ここからは山頂まで雪が残っているはず。
山頂で後から登ってきた登山者の話だと稜線では一ヶ月以上雪解けが早いらしい。

山頂で湯を沸かし食事をする。することもないので下山を開始、常念乗越しからの雪の下山は快適で楽しい、ご褒美みたいなものである。雪が無くなると苦痛だけど。

2日目　蝶ケ岳（ピークハント）
三俣 5:00　豆打ち平 6:20　蝶ヶ岳 8:30　蝶槍 9:30･10:30　山荘 11:30･12:00 豆打ち平 12:30
三俣 13:30

早朝登山口の三俣に向かう、終点の駐車場に近づくと路肩駐車が目立つ、山菜採りかなと思っていたがどうやら登山者のようだ、結構手前から駐車しているから車を止められるか心配になる。とりあえず駐車場に向かうと幸いスペースがあり車を止める事ができた。

下部の登山道をそれなりに登る。雪の量が心配だったが豆打ち平から雪が残っていた、この季節ここからルートファイディングし、木の枝なんぞを掴んで登るのが楽しいのだが、昨日入った登山者が多かったのかしっかりと踏み跡が続き、なんとなく山頂小屋に着いてしまった。

あまりに早いので今後の行動を考える。常念を越えて前常念から三又に戻るのは可能だろうか？、行程的に今の時期ならヘッデン下山にはならない、行動食は問題ない、良し行くかと腰を上げる。蝶槍について唖然とする。常念まで雪がつながっていない。常念から前常念まで黒々している。前常念から下部は確か尾根道だったはず当然雪は期待できない、夏と変わらないじゃん、やる気は一気に萎える。プラブーツで常念から来た登山者がいたがあれは苦行だな。

風の当たらない日当たりの良いところで大休止、エリアマップを広げあれやこれや考え時間をつぶす。その後山頂小屋でガチャに会う。雪は4月の長雨で消えたらしい。会山行のパーティーは昨日蝶に来て、常念を越えて三又に下りるらしい。道理で昨日合わなかった訳だ。でもそのコースならまず参加はしない、この時期は一ノ谷の雪渓を詰めて常念に上がりたいから。ガチャの昼休みが終わり仕事に戻ったので当方も下山を開始する。下山途中に、年々品が無くなるゴジラを見る。小便小僧にヒゲを書いた落書きを連想する、アホども余計なことをするな。　自然が一番。

５月６日　燕岳（ピークハント）
中房温泉　5:50　合戦小屋 8:14　燕岳 9:40・11:00　合戦小屋 12:00　中房温泉 13:00

連休最終日すごーく早起きして中房温泉に向かう、何と有明でゲートが閉まっている。落石の危険があるため夜間通行止めとし 5 時 30 分にゲートを開けるらしい、俺の早起きを返せ。（実際には 5:10 位に開いた）

中房の駐車場は六割ぐらいの混みよう、早速身支度を調え登山口に向かう。出だしから急斜面をあえぐことになると思ったが体が軽い、第 3 ベンチまで雪はほとんどなかった、ここから雪道となるがやはり平年より雪が少ない。

合戦小屋で小休止をした後、急な斜面を登り切ると展望が一気に開き、燕山荘へと続く稜線にでる。両側に遮るもののない気持ちのよい場所である、ここを歩きたくて、春の燕にくるのだと思う。本来なら山荘まで白い稜線が続くのだが今年は雪がつながってない、しかも山荘直下は全く無い、なんてこった。途中三十人を越える団体さんに道を譲り燕山荘に到着する。そこから雪のある年とは違うコースをたどり山頂に到達。風の当たらない日だまりでお茶をし小屋に戻る、帰りに探していたイルカ石を見つけちょっと感激、今まで見つからなかったのは思っていたより山荘側にあるのと、雪があるときはもっと安曇野よりを歩くので見つけることができなかったと思われる。

その後は雪をつなげて下山する。　登りと違いあっという間に合戦小屋に到着、その後の第三ベンチからの雪なし道は新緑を楽しみながらゆっくりと下りました。
総括　燕の雪稜、常念の雪渓、蝶の樹林帯は楽しいですよ。でも雪が少ないといまいち。　（S藤　記）

5月10日(日)　地味に麦草岳（個人山行）

メンバー：　L　S藤　ほか0名
　木曽駒高原スキー場 6:10　七合避難小屋 8:20　麦草岳 10:00・11:55　七合避難小屋 12:23
　木曽駒高原スキー場 14:00

　2月に行こうと考えていた中央アルプス麦草岳、結局遅れに遅れ5月の入山となる。
10日の朝4時に目が覚める本来ならすでに登山口に居るべき時間だ。　急いで準備するが結局登山口に着いたのは6時過ぎだった。登山者は私一人静かな山行である、四合目・四合半の力水と淡々と登る5合目で雪が出てくるが問題はなく7合目の避難小屋に到着、気持ちがいいので小屋の外で小休止ここからアイゼンを付ける。ルートは一直線の急登で、途中ハイ松にはまったり結構楽しい思いをして山頂に到着した。
　木曽前岳を目指そうと思ったが見ると結構やばそう。持ってきた地図がエリアマップのみで地形が読めない、気の弱い私は出発時間も遅れたことだしここで断念（あきらめ早くないか私）昼寝を決め込む、珈琲を飲んでデコポン食べて何と山頂で2時間（六百山を越える滞在時間更新か）玉の窪沢がスキーによさげであるとか、空木に残雪期に登りたいとかいろいろ考える。その後昼寝の場所も三カ所くらい変えて時間をつぶし下山を開始する。登りと違って下りは早いが雪が緩んで落ちまくりである。
　一度太ももまで落ち足が抜けずに難儀した。避難小屋を通り抜け五合目まで一気に下る
その後は雪の無い道をゆっくりと下山した。
　帰宅後、地図とネットで調べたら問題なく木曽前岳までいけたなと、あきらめの早い自分にちょっと幻滅、まあ事前調査がしっかりしないとだめと言うことで来年の目標にしました。
総括　中アの木曽側は西風が強いので注意、登山中誰にも会わず静かな山行でした、又行程もそれなりに楽しめました。　木曽前岳まで行けば充実した山行になると思います。　（S藤　記）

5月11日(月)　乗鞍岳　春山スキー（個人山行）

メンバー：　0川
　天気：晴れ
7：20 三本滝P、9：55 同バス亭発　→10：30 位が原山荘発→11：20 肩の小屋口　→13：15 蚕玉岳 13：30　→14：00　位が原山荘 15：34→16：00 三本滝P

　滑り納めに乗鞍岳に行ってきました。前日運行状況を確認し、始発7：30に乗車すべく三本滝の駐車場に到着しました。しかし、バス亭には係員（多分前日電話での応対者）以外に誰もいません。前夜の冷え込みで雪渓が凍結しているため始発と次発のバスの運行を取りやめ、9：55分のバスから運行するようにしたとの事です。ほとんどの人は、バスを使用せず直接山頂を目指す様です。
　体力を考え、少数組と一緒にバスを待つ事にしました。予定より2時間半遅れの出発となり

ましたが、晴天なので行けるところまで行こうと考え、位が原山荘を出発、まずは肩の小屋口の避難小屋を目指します。小屋付近に到着、既に先行者が大勢登っています。

写真１．剣ヶ峰・蚕玉岳・朝日岳（左より）

数名は剣ヶ峰 - 蚕玉岳(写真１)のコルへ向かっていました。

小屋付近より朝日岳と蚕玉岳のコルに向かいます。直登組にはついていけず、ジグザグ組のトレースにつきました。

途中から、昨晩の凍結の名残はありましたが、シールはしっかり効いていました。蚕玉岳に到着、剣ヶ峰山頂（写真２.）はパスし、遅い昼食を取りました。

当初この蚕玉岳に荷物をデポ、山頂を往復し、登って来たコースを滑る予定でしたが、剣ヶ峰 - 蚕玉岳のコルから滑ってきました。滑りはじめは、急斜面にちょっとビビって腰が引けましたが、途中からは快適でした。しかし、位が原小屋付近は、雨による縦溝の深さとその間隔が微妙で、結構苦労しました。位が原山荘からバスで下山でしたが、スキー場の上部までスキーで降りてきたほうが縦溝の斜面を回避でき快適な様子でした。なお、下山後、唇の日焼けに難儀しました。日焼け防止を万全にする必要があることを痛感しました。

(O川　記)

写真２．剣ヶ峰（乗鞍岳山頂、手前が蚕玉岳）

５月１４日(木)　男山（個人山行）

メンバー：　U木

42 号の駐車場 8:20－林道終点　9:51－天狗の分岐 10:43－頂上 10:52－11:20

林道終点 12:06—普通車可の看板　12:27－登山口　13:35

（ちなみに標高　登山口　1150m　　普通車可の看板　1400m　林道終点　1600m　　頂上　1851m）

3 日まえに飯縄に行ったら調子が良かったのでその気になった出発したが昨日すこし鳶岩で登攀したら腰がいたくて体いささかだるい。

ナビが途中でいつもの川上村の左折の信号手前から 42 号にはいるように指示。

伊部さんは川上駅からはいるようになっていたがちょうど逆になる。しかし距離的にちかいらしく早く着いた。もしかして小川山の近道ではないだろうかと思った。ナビも役にたつなあ。

すでに１台シニア夫婦多摩からわざわざきていただいだ。林道入り口には柵があるがカギはなかった。

立派な林道が続く。いつか登山道にはいるだろうと思いつつひたすら林道をたどる。林道は車でも可らしく車に乗った別のシニア夫妻に追いつかれる。しばらくすると普通車はここまではよろしいという看板があり１台車が駐車してあった。ここからはさらに道が悪くなり自動車も難しいそうだ。

悪い林道さらに我慢してだどるとやった林道は終点となる。ここから１KM との看板があるが GPS をみると少しで頂上みたいである。看板の距離がおかしい。これは頂上で会った人に聞いたがおかしいとの賛同を得た。急に登山道度は急こう配で岩も混じる。稜線にでて天狗山への分岐。すぐそこに頂上が見えるがあと６００ｍと記載されていたのでおかしな看

瑞牆山のヤスリ岩とミニハ峰

板。川上村の観光課に知らせるズクはないが。男山の名前と 10 日前の天狗山との対で登ったがどうもほとんどが立派な林道歩きになっていていただけない。

頂上で単独の若者がいて遠くの山の名前を教えてくれた。八ヶ岳はすぐに分かるが左手に雪をまとった山が中央アルプスで右手の雪の山が蓼科らしい。

瑞牆山のヤスリ岩がよくわかりここからみるとミニ八峰にみえて恰好がいい。レタス畑が白くて雪みたいだ。しかし頂上の反対側の岩で細くて両側が完全に切れていてまるで蟻の戸わたりみたいで超魅力的だが勇気はない。無謀な爺さんが滑落なんて新聞にのりそうなのであきらめたが。昔だったら絶対行っただろうな。

帰りも林道歩きをして自動車に戻った。明日はくたびれやすもう。とび岩に備えよう。暇だからおおぐりさんのひもの話でも読むかな。こころ旅のちゃりこの火野正平の「こころ手紙」なる歌を聞きながら。　彼は歌がうまくないけどなかなか飽きない不思議な歌。じいさん向きなのだろうか。

（U 木　記）

頂上の蟻の門渡りみたいな稜線　魅惑的なリッジ

頂上の岩のリッジをしたから見る登とおもしろそうだな

5月17日(日)　高妻山 （クラブ山行）
＊＊＊残雪と咲き始めた花々の共演＊＊＊

メンバー：　Ｌ　Ｔ塚　ＳＬ　Ｓ木　Ｓ藤　Ｙ本
天気：晴れ
戸隠牧場 5:15→7:05 一不動→8:20 五地蔵→9:30 九勢至→10:50 高妻山→12:45 九勢至→13:25 六弥勒分岐→弥勒尾根（徳武新道）→15:30 戸隠牧場

牧場入口の駐車場に多くの車が止まっており、この時期の登山者も沢山いるものだと思ったが、牧場に行くとあちこちにカメラを構えた人々。車の多くは写真愛好家や渓流釣りだったらしい。昨日の雨とうって変わった青空の下出発。

牧場の所々にニリンソウの群生、この時期にきたことが無かったのでビックリ。登山道に入っても所々にニリンソウの群生。最初の徒渉箇所の丸太の橋が折れており、慎重に渡る。

滑滝に近づくと残雪が多くなりしばらくはノーアイゼン進むが斜面が急になって来たところでアイゼンを装着。滑滝の鎖場付近は雪に覆われて無雪期より歩き易い。滑滝上部のトラバース箇所はステップが泥で覆われているため

慎重に進む。

一不動について初めて一本、路肩に行者ニンニクが葉を出し、シラネアオイも小さな花を付けていた。五地蔵に向けて出発。途中エンレイソウ、イワカガミ、アズマギク等の花々が咲いていた。

滑滝上部のトラバース

六弥勒を過ぎて初めて先を行く登山者と出会う。牧場で弥勒尾根方向に歩いていた人だった。九勢至付近で下ってきた登山者に残雪状況の話を聞く。一部 20m 程雪に覆われた急な斜面があり、登りは良いが下りはアイゼンが必要だろうとの話。その人は、弥勒尾根から登って乙妻まで行ってきたとのこと。この時期一不動から登る人は少ないらしい。

いよいよ急な雪面、リーダーがトップ、２名番手でストックを雪に差し込み、キックステップで足場を確保しながら進むが疲れる。途中でトップをＳ藤さんに交代。再後尾に付くもステップの幅が合わない所があり、余り楽にはならなかった。悪銭苦闘の末雪面を脱出、まだまだ急な登山道を進みようやく山頂へ。少し霞んではいるものの 360°の大パノラを見ながら行動食を摂る。Ｓ藤さんが持ってきた夏みかんとキュウイもうまかった。

九勢至から高妻山

頂上でトレラン姿の若者と出会う。東京から夜行バスで来て弥勒尾根から登り、帰りは戸隠から下ると足早に下って行った。

長い休憩も終わりいよいよ下山、例の雪面ではアイゼンを装着、雪面に自信の無い自分はピッケルで確保しながらクライムダウン。六弥勒分岐までの登り返しは堪えた。弥勒尾根の長い急な下りでは、小さな竹の子が所々芽を出していた。家に帰って階段を上り下りの際、膝周り、大殿筋、アキレス腱が痛いのにはマイッタ。
(Ｙ本　記)

５月２４日(日) 地味に鹿島槍（個人山行）

メンバー：　ＬＳ藤　ほか０名
林道駐車場 6:15　登山口　7:10　冷池山荘 10:30　鹿島槍山頂（北往復）12:25～13:30
冷池山荘 14:30　登山口 17:00　林道駐車場 18:00

後立山は、昨年６月に爺ヶ岳に登っているが、今年は雪が少ないので早めに登ることにした。場所は爺の隣の鹿島槍に決定。計画書を作成して気がついたエリアマップでの行程が 15 時間かかっている、休息・食事の時間も合わせれば 16 時間を越える、だが今の時期日も長いし朝早めに入山すればいいかと決行することにした。

世の中思いとおりに行かない物でしっかり寝坊をした。また土曜日に、何と歯の詰め物がとれ満足に物がかめない状態になる、行動食が大問題である。

ともあれ、計画を大幅に遅れ駐車場に到着、一人林道を行く、ひまである。北俣本谷の砂防ダムをくぐるが出口が狭い自分でぎりぎりの通過となる。

ここから赤岩尾根に入る、急登である、所々雪の残っている道をひたすら登る。高千穂平は良いとこである、しばし休憩をする。冷池山荘で大休止の後、鹿島槍を目指す。

ここからも夏と変わらない道である、雪は小屋からしばらく続くがここは７月まで雪が残っているらしいのでやはり夏道である。思ったように時間を稼げなかったが北峰まで往復をした。

おやつのバナナを食し下山を始める、途中赤岩尾根の雪のトラバースで怖い思いをした。雪が腐りすぎていて蹴り込んでステップを作っても崩れる。ストックをピッケルに換え根元まで差し込んで滑落を防いで怖い思いをしてようやくトラバースした、振り返ればたいした斜面じゃないんだけどね。後はひたすら下る。長い林道歩きの末実働 12 時間ほどで駐車場についた。
途中小屋番以外に会わず鹿島槍一人締め…　オホォホォ　である。

総括　雪はほどほどに締まってないと超怖い、最後の急な雪壁（７ｍ）で後ろ向きで下りてたら途中から４筋の跡を残し、降りている姿勢まま５ｍほど落ちた。五月連休頃の登山者と思うがキジ紙残しすぎもう少し何とかせい。キジ岩尾根て呼んじゃうぞ。後、歯は大事にしましょう。　　（S 藤　記）

編 集 後 記

今年は 5 月だというのに暑い。そして忙しい。毎晩１１時帰りでは、週末に疲れをとるのに精一杯。とぼやきながら、あまりの雪の少なさで富士山スキーでシーズンを終われなかったことを無念に重い、板を片付けました/てら

蔵王、箱根、桜島、関東でＭ８．５の地震、、、最近、あちこちで地殻変動が激しくなっていますね。普段は忘れがちですが、改めて地球のダイナミックな生命力を実感しました。
ところで箱根はどうなってしまうのかしら・・・。下世話な話ですが、あそこの黒たまごけっこう好きなんですけど・・・。／だんちゃん